



## 同和問題研修会で気づいて欲しかったこと（高校生編）

キッチンで夕食の支度をする人がいます。

オフィスで部下の資料に目を通す人がいます。

夜景の見えるレストランで支払いをする人がいます。

パイロットになる夢を発表する子どもがいます。

想像したのは男性の姿ですか？女性の姿ですか？

無意識の偏見に気づくことから、はじめませんか。

A Cジャパンの広告から

上記の啓発広告を聞いたり見たりしたことはありませんか？

私たちは、普段の生活の中で自分では意識していなくても、周囲の人たちの価値観の影響、社会的仕組みによるマジョリティ優位思想、また風習・慣習・因習などが原因で「無意識の偏見」をうえつけられていることがあります。

これをアンコンシャス・バイアスといいます。それは些細な言動や何気ない行為に含まれており、これがあらゆる差別の要因となっています。

今年度の同和問題の研修会で、私は高校生何人かに質問しました。

「あなたは、部落差別についてその原因や現状を少しでも知っていますか？」その答えは「全く知らない」でした。最近の部落差別は表面化した差別事案は格段に減っているので部落差別を直接見聞きする体験をしている高校生は少ないのでしょうか。でも、次の質問で「同和地区のイメージは？」との問いには「暗いイメージ」「怖い感じ」「集団でやってくる」など良いイメージを持つ人が一人もいませんでした。同和問題について「全く知らない」のではなかったようですね。これはいったい誰から聞いた偏見のイメージなのでしょう？きっとその多くは「知らない間に」「徐々に」だと推測できます。

まずは自分のもつバイアスに気づいて欲しいのです。そして、客観的かつ公平な視点で物事を見ることが大切です。若いあなたの一言が周囲にどのような影響を今後与えていくのかを自覚し、正しい人権感覚を持てる大人になってくださいね。

おばちゃん2